

石狩川の環境保全と生態系の回復を通して、
石狩川上流部での野生サケ資源の回復事業

あさひかわサケの会
代表 寺島 一 男

1964年(昭和39年)石狩川下流の深川市花園地区に固定式の農業用頭首工:花園頭首工(現在は取水していない)が完成するまでは、旭川市内の河川に多くの遡上するサケの姿をみることができました。大雪と石狩の自然を守る会(「あさひかわサケの会」の母体)は1970年代旭川市内石狩川支流の「牛朱別川水銀問題」から旭川市民の眼を「川」に向けてもらおうと、サケ稚魚の飼育放流活動を始めました。永年のこうした市民による「サケ稚魚飼育放流活動」の取り組みに対し、独立行政法人水産総合研究センターによる「石狩川本流サケ天然産卵資源回復試験50万尾放流3ヶ年計画(2009年・2010年・2011年)」が実施され、2011年の秋より旭川市内河川で石狩湾から160kmを群れをなして遡上してくるサケの姿が見られるようになりました。約半世紀ぶりのサケの遡上に、旭川市民の関心は非常に高まりました。このことは北海道新聞・NHKをはじめ多くのマスコミにより連日報道されました。

標記の事業は単年度で終結するものではありません。永年に亘る調査研究活動に支えられ成し遂げられるものと考えております。今回、前田一步園財団より当会備品の充実及び学習資料編集に対し多大な助成を受けましたことは、今後の活動に有効に作用していくものと確信いたしております。

- ・プロジェクター・スクリーン式:当会が推進しております幼稚園・保育園・小学校への「出前サケ授業」で有用に活用出来ます。デジタル距離計は、産卵床調査時に産卵床位置(GPSData)と共に近隣架橋からの距離を記録するのに有用です。
- ・のぼり旗:調査活動時に掲げることで当会の活動実態を広く市民に周知するのに有用でした。
- ・サケについての資料(All Color):イベント時に解説資料として有用でした。「サケのふるさとを訪ねて」、「サケ遡上環境見学会」、おいしいサケクッキングⅠ&Ⅱ時の学習教材として使用できました。

2021年度の当会の活動について報告いたします。旭川市内河川への熊出没による河川及び河川敷への『立入禁止』措置が7月中旬から10月上旬まで採られたことや旭川市全域が新型コロナウイルス「まん延防止等重点地区」に指定されましたことにより予定のイベントが開催中止や実施期間短縮となりました。

- ・みどりの回廊展(展示活動) 中止
- ・サケ案内人養成講座 中止
- ・カムイチェプノミと秋の川クリーンウォーク 中止
- ・産卵床ホッチャレ事前調査 中止
- ・幼稚園、保育所、小学校への各種出前授業 自粛
- ・サケGuide(遡上サケ見学の市民への見学マナー指導と釣り人からの産卵床保全)期間短縮 10/16・17・23・24・30・31に実施
- ・産卵床ホッチャレ調査 期間短縮 10/14、11/4・18に実施

2021年度の活動は、上記の社会環境及び自然環境に影響を受けたものと成りました。こうした中でも、3月27日に市民263名の参加者を得て、第39回サケ出発式・カムイノミが開催され、約2000尾のサケ稚魚が大海原に旅立ちました。

あさひかわサケの会の2021活動のSNAP



5月15日 春の川クリーンウォーク ・開会の様子 ・大正橋コースの集積ごみ



6月25日 第1回森づくり活動 2021年から取り組む ・集合写真 ・補植の様子



7月18日 学ぼう川のはたらき 平田剛士さんの講演 「川サケともっと深くおつきあい」



10月16日 サケのふるさとを訪ねて ・当初9月開催を10月に延期実施 ・遡上サケを観察





10月24日 おいしいサケクッキングⅠ ・サケ解体の様子 ・チャンチャン焼きを賞味



10月31日 サケ遡上環境見学会 ・座学の様子 ・現地研修 説明を聴く参加者



11月4日 産卵床ホッチャレ調査 ・産卵床の計測 ・ホッチャレ（キツネ？鳥？に捕食）



11月7日 おいしいサケクッキングⅡ（鮭トバづくり） ・解体時に学習 ・丸ごと一尾と格闘





11月13日 人工産卵床造成（サケの揺り籠づくり） ・参加者一同 ・作業の様子



2月17日 人工産卵床モニタリング ・仔魚の様子確認 ・小雪混じりの藻除去作業でした



2月27日 会員会議記念講演会「サケをめぐる最近の話題と課題」 ・37名の参加者 関心高い！



3月27日 第39回サケ出発式・カムイノミ ・稚魚の無事を祈る ・元気に大きくなってね！

